

台湾における製造実行システム(MES)のリーディングカンパニー、羽冠電腦

羽冠電腦は台湾で最も歴史のある、コンピューター統合生産システム(CIM)のソフトウェア開発企業である。積極的に他社との連携を行っており、特に日本企業との連携経験も豊富である。今回は羽冠電腦の鄭董事長を訪ね、台湾での事業内容、経営戦略、そして今後の事業展開についてお話を伺った。



羽冠電腦科技股份有限公司 鄭滄光董事長

—コンピューター統合生産システム向けソフトウェアのリーディングカンパニー

羽冠電腦は1989年に設立され、今年で創業26年目になります。台湾で最も古い歴史を持つコンピューター統合生産システム向けソフトウェアのサプライヤーとして、特に大規模な製造業向け「製造実行システム(Manufacturing Execution System) (以下、MES)」の開発や導入に注力している他、設備や倉庫、輸送システムの自動化に向けたインテグレーションサービスも提供しており、当領域を牽引しています。当社の2014年の売上高は2.5億元(約10億円)ですが、これはハードウェア事業には参入していない、純粋なシステムベンダー企業としては、台湾で突出した業績だと言えます。

当社の強みは、様々な産業分野に対応できる豊富な人材によるチームワークです。IT関連技術に長けたスタッフだけではなく、自動車や農業等様々な産業に精通したエキスパートが在籍しています。他社との連携・提携も積極的に進めています。当社はもともとMESシステムソフトウェアのプロバイダーですが、設備会社やその他ソフト会社との連携を強化しており、現在は台達電、盟立、士林電機、組成自動化産業連盟等、ERP・Eコマース・工程管理等の各領域のソフトウェア企業と積極的に連携を進め、トータルソリューションサービスの強化に努めています。

また、私は整廠輸出協会、資訊軟體協会、新北市電腦公会、海峽兩岸産業資訊合作促進会等の理事

等を担当しており、台湾のソフトウェア業界の指南役としての役割も担っています。

—台湾のハイテク産業と共に発展

台湾のハイテク産業は80年代から発展し始めました。最初に半導体産業が立ち上がり、続いて光電、太陽エネルギー、コンピューター等が台湾経済において最も重要な産業となりました。

当社は製造業向け全般のシステムソフトウェアを提供していますが、専門性をより高めるため、特に光電(主にタッチパネル)、自動車部品、家電及び食品の4つの産業に特化し、発展させていくことを目標としています。また、特にこうした産業における大型企業或いはグループ企業をターゲットに絞っています。例えば、友達・群創・華映・宸鴻・杜邦・六和・堤維西・統一企業・東元家電・日立家電等の著名企業へのシステム導入を数多く実施しており、台湾市場で安定した業績を納めています。

—中国市場に参入

2003年には、南京に羽冠(南京)系统集成有限公司を設立し、中国市場に本格的に参入しました。しかし、参入当初は決して順調というわけではありませんでした。当時は台湾政府が国内のハイテク産業を保護している時期で、中国への設備輸出ができず、投資が思うように進みませんでした。韓国企業も同時期に中国

台湾トップ企業

市場への進出を積極的に進めており、先行してシェアを獲得していた韓国企業との熾烈な競争により、中国市場での事業立ち上げは多くの困難に直面しました。しかし、市場の発展に伴い、中国企業もコストを見直す傾向が強まり、コストダウンへのニーズの高まりと共に、当社の台湾での成功モデルを中国で展開させていく機会が増加していきました。現在では、当社の顧客の5割は中国顧客が占め、中国事業は安定して成長しており、代表的な顧客TCL、京東方、天馬、海爾家電等が挙げられます。

台湾では2008年の金融危機後、多くの投資計画が中止或いは延期となり、また近年の台湾光電産業の業績悪化などシステム産業にとって苦境の時期がありましたが、当社は既に中国市場での事業が好調に推移していたため、特に大きな影響を受けることはありませんでした。

Industry 4.0を契機とした 事業発展のチャンス

ドイツがIndustry 4.0を提唱し始めてから、Industry 4.0は製造業発展の次なる代名詞となり、工業大国であるドイツや米国、日本、中国も積極的に関連の取り組みを進めています。台湾政府も世界のトレンドに乗り遅れないように「生産力4.0」プランの下、産学民のリソースを集結させ、製造業が新たな「スマート製造」の時代へと邁進することを期待しています。

設備の整合や作業プロセスのデータ収集、自動化等はまさにIndustry 4.0発展の基盤となります。こうした今回の新たな産業革命においても、当社のこれまで26年に渡るキャリア及び企業40社への導入成功実績を後ろ盾とし、さらに積極的に市場開拓を進めていきたいと考えています。

豊富な日本企業との連携経験により 今後も更なる連携チャンスを積極的に模索

当社は、長年に渡り光電市場を開拓してきました。

こうした中で日本企業はパネル設備の主要サプライヤーであり、これまで数多くの日本企業と連携し、常に良好な関係を構築してきました。また、当社ではもともと長期的に協力関係を構築できるパートナーとの連携を優先してきたため、お陰さまで共感できる企業方針を持つ日本企業約10社と安定した提携関係を結んでいます。

当社は台湾における自動化インテグレーションシステム分野をリードする企業であり、中国事業も安定的に成長しています。大型顧客との経験も多数あり、今後は日本の自動化設備における優位性と当社が持つ顧客網・特定産業における専門技術及び特にコミュニケーション力の3つの強みを活かした日台連携モデルにより、中国及び東南アジア市場を共同で開拓していきたいと考えています。

ありがとうございました。

羽冠電腦科技(股)有限公司の基本データ

設立	1989年4月25日
会社名	羽冠電腦科技股份有限公司
代表者	鄭滄光 董事長
資本金	8,800万台湾元
売上高	2.5億台湾元
従業員	170名(内台湾 135名)
事業内容	MESソフトウェア開発をメインとした製造業向け自動化設備システムインテグレーションのトータルソリューションを提供

注)2015年7月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理